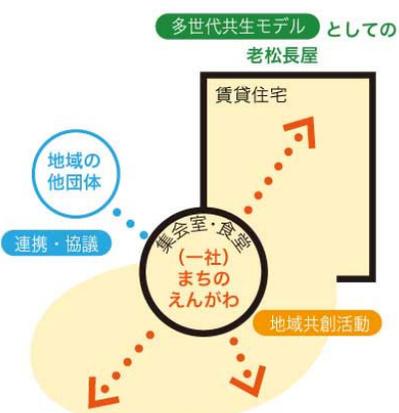


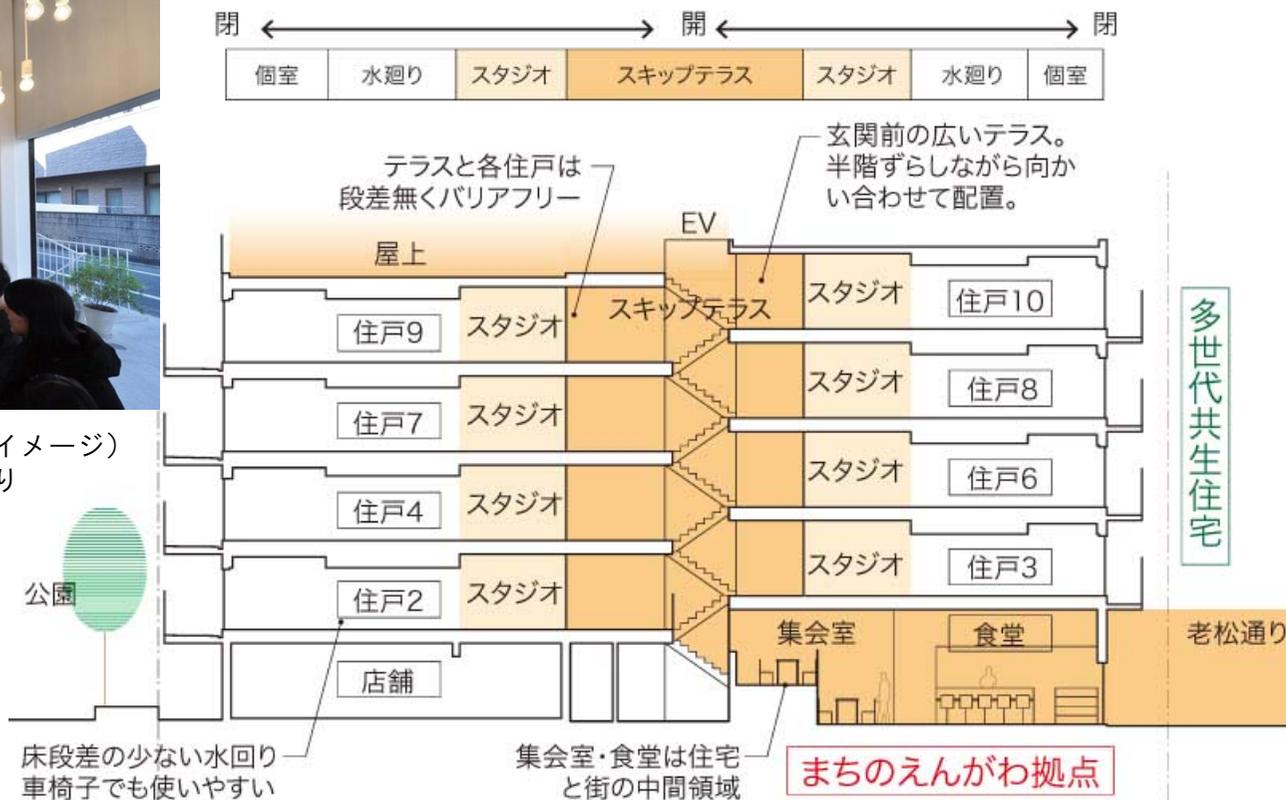
多世代共生・地域共創施設「老松長屋」建設事業

地域コミュニティが希薄化する都心部で多世代共生型住宅を整備。住宅居住者と地域住民が協働で運営等を行い、地域コミュニティの再生・活性化を図る。

- 大阪都心部の西天満地域は、職住一体の地域コミュニティの希薄化が深刻化しつつある。
- 本提案は、町内会の担い手が中心となり、コミュニティ拠点のある多世代共生型の住宅を整備。「まちのえんがわ拠点」等施設運営は、住宅居住者や地域住民を組織化し協働することで、地域コミュニティの再生・活性化を図る。また、地元社会福祉協議会や町内会等が参加する円卓会議を開催し、活動の持続性を確保する。



1階のまちのえんがわ拠点（食堂イメージ）
新旧の住民が交流する仕掛けづくり



多世代共生住宅

事業概要

| | |
|--------|---|
| 代表提案者 | 北勝堂プロジェクト |
| 共同提案者 | ㈱仲建築設計スタジオ、創造系不動産㈱、㈱やさしい手 |
| 事業実施場所 | 大阪府大阪市北区 |
| 事業実施内容 | 共同住宅の新築(5階建て、1棟:コミュニティ再生に向けた活動を行う集会所、食堂等) |
| 事業実施期間 | 令和元年10月～令和3年10月 |

評価委員会での評価内容

- ハード及びソフトの両面から創意工夫がみられる充実した提案で、建築計画でも住民同士のつながりを促す仕組みが評価できる。
- 一方、若年世代に訴求力のある提案であるが、多世代共生住宅であるための仕掛けを具体的にどのように構築するのか等については、公共性を確保する観点から、十分に検証しながら実施する必要がある。